

図書館通信



豊かな時間を図書館で

平成31年
(2019年)

2



月号

第455号 (第37巻第11号)

【目次】

P 1	サポーター説明会のご案内	P 6	職員コラム
P 2	行事と展示のお知らせ	P 7	職員のおすすめ本
P 3	事業告知・事業報告	P 8	新着図書案内
P 4	アーニス分館だより	P 12	カレンダーとお知らせ、 図書館施設のご案内
P 5	市民のひろば		

編集・発行 登別市立図書館

URL <http://www.noboribetsu.ed.jp/~iinkai/library/>

〒059-0012 登別市中央町5丁目21-1

E-mail toshokan@city.noboribetsu.lg.jp

電話 (0143) 85-4324 FAX (0143) 85-4325

『図書館市民活動サポーター』募集説明会を開催します。

登別市立図書館は、市民の皆様とともに成長できる、地域に根ざした図書館を目指しています。

そこで、皆様の経験や技術・知識を活かせる舞台であったり、人々の出会い・つながりの場として自主的な図書館活動を行う「図書館市民活動サポーター」を募集します。

空いている時間で何か活動したい方・経験や技術を活かしてみたい方・図書館活動を通じて出会いを広げたい方など、ご自身の都合に合わせた日程や時間帯で、個人（お一人）でも参加できます。

趣旨や目的・活動内容についての説明会を下記のとおり開催しますので、興味や関心のある方は、ぜひ説明会にご参加ください。

○第1回 2月16日（土）

①午前10時～11時 ②午後2時～3時 ③午後5時～6時

○第2回 3月9日（土）

①午前10時～11時 ②午後2時～3時 ③午後5時～6時

※各回の内容は同じです。ご都合の良い回にご参加ください。事前の申込は不要です。

※4月・5月にも開催する予定です。

映画会

※会場はいずれも図書館3階の会議室です。
入場無料でどなたでもご覧いただけます！

- こども映画会** 日時 2月2日(土) 午前10時30分より(47分)
タイトル 「雪渡り」「氷河ねずみの毛皮」(アニメ2本)
- 名画鑑賞会** 日時 2月2日(土) 午後1時30分より(120分)
タイトル 「新しい風」(邦画)

イベント・講座

※会場及びお問い合わせ先：登別市立図書館

①ビブリオバトルの夕べ・・・共催 いぶりびぶりぶ♪ 松田靖子さん

お茶を飲みながら、お気に入りの本の紹介を楽しみます。

開催日時 2月14日(木) 午後6時～午後7時30分

 **申込不要**

②郷土文化講座「日本古来の製鉄法 たたらを学ぶ」

└ 講師 室蘭・登別たたら会 石崎勝男さん

古来の製鉄法「たたら吹き製鉄」と、室蘭・登別における製鉄の歴史を学びます。

開催日時 2月23日(土) 午後3時～午後5時

 **申込不要**

おはなし会

※会場：①図書館3階会議室
②図書館1階えほんのへや

①おはなしくれよん(えほんとわらべうたあそび)

日時 2月13日(水) 午前10時30分より

②おはなしぽけっと(絵本や紙芝居の読み聞かせ、エプロンシアターなど)

日時 2月23日(土) 午後1時30分より

※今月は読み聞かせ講座開催のため「えほんのへやのおはなしかい」はお休みです。



ロビー展示

『子どもの心にとどけたい！ 読み聞かせの本』

2月9日に行われる「心を届ける朗読・読み聞かせ」講演会に合わせて、関連本や登別市立図書館職員が選んだおすすめ絵本の展示を行います。

展示期間 1月19日(土)～2月9日(土)

展示場所 図書館1階 ロビー

事業告知

絵本の読み聞かせ講座



2月9日（土）午後1時より、アナウンサーの五十嵐いおりさんを講師としてお迎えし、絵本の読み聞かせ講座を行います。

絵本「スイミー」を題材として実践指導、グループワークを交え、読み聞かせの基礎を学びます。

【講師：五十嵐いおり氏】

朗読を田中隆子氏、山根基世氏に師事し、自ら朗読教室を主宰する五十嵐さんの指導を直接、受けることができる貴重な機会となります。

ボランティアで読み聞かせを行っている方、また、絵本や読み聞かせに興味のある方など、多数のご参加をお待ちしています。

日時： 2月9日(土)午後1時30分～3時
会場： 図書館3階 会議室
定員： 30名（参加費は無料です）
申し込み： 1月12日（土）～2月6日（水）まで
児童室カウンターまたは電話にて受け付けます

事業報告

「読書感想文・読書感想画コンクール表彰式」を開催しました

12月15日（土）午後2時より、登別市民会館中ホールを会場に「小・中学生の読書感想文・読書感想画コンクール表彰式」を開催しました。

今年度から各コンクールの募集対象を変更し、感想画は小学校1・2年生のみ、感想文は小学校3年生以上としたところ、感想画コンクールには251点、感想文コンクールには406点の応募がありました。

表彰式では、感想画の入選者16名と感想文の入選者58名に表彰状と記念品が贈られ、小学生・中学生それぞれの代表による感想文の朗読が行われました。

また、入選作品をまとめた文・画集「本は友だち」を図書館（本館）で配布しておりますので、ご希望の方はお声かけください。



アーニス分館だより

アーニス分館では

- * 「今月のおすすめ」の展示を行っています。
- * オンライン・データベースを利用できます。
- * DVDを視聴できます。
- * 見やすい大活字本もあります。
- * 貸出が済んだ本は、アーニス分館入口前の「お休み処」で読む事が出来ます。



特集・温泉



寒い冬こそ、温泉へ行こう！

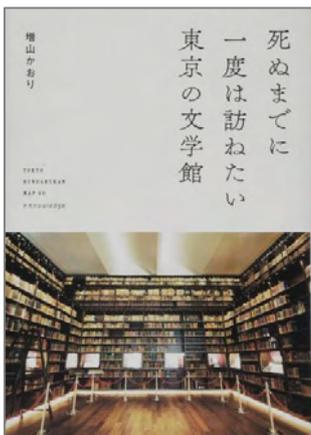
地元の温泉もいいけど、ちょっと足を延ばして秘湯へ！



《新刊おすすめ本紹介》



死ぬまでに一度は訪ねたい東京の文学館 / 増山かおり著/エクスナレッジ



文学から漫画・アニメまで、東京の文学館全 60 館を紹介。ミステリー文学資料館、少女まんが館などを写真付きで、飲食スペースの有無や図録以外のグッズ販売といった情報も掲載しています。データは 2018 年 7~8 月現在。



紹介されている文学館は、作家が実際に暮らした自宅や、ゆかりの場所にあります。訪ねるときには、建物も、途中の風景もゆかりのモノとしていろいろと楽しめそうです。





図書館に残る私の足跡

図書館のファン 畠山 憲一

ある作家が、本を二千冊読んだとの話を聞いて、私も挑戦しようと思った。

読まないまま置いてあった『三国志』や『花神』などを、押入れの奥で見つけて、手に取った。面白くて一心不乱に読みふけた。

読み終わるとホッとして、その日の日付とタイトル、そして作者の名前を手帳に記入した。これが二千冊の第一歩だった。

しかし二千冊というと、莫大な数になる。それで市立図書館へ通い始めた。

初めて図書館に入った。二階へ上がって本棚を見て回り、重松清と星新一の本を手にとった。それから児童室へ行き、孫との話のタネにと絵本も借りた。

小説は読み始めると、その先が読みたくなり、寝る間も惜しんで一気に読んだ。読み終わると、タイトルを含めて気に入った文章をノートへ書き写す。

絵本は、まず絵だけを最後まで見る。そして最初のページに戻って、文と絵を読み始めていく。すると何かの拍子に、頭で渦が巻いて心の奥へストンと落ちることがある。これが、作者とシンクロした瞬間かも、と一人にやける。

本を返しに図書館へ入ると、職員の人が、返却された本を一冊ずつ開いては、汚れなどを確かめ丁寧に拭いていた。その姿から『本を大切にする』細やかな心が伝わってきた。

それなのに私は、借りた本を雪の中へ落として濡らしてしまったのだ。おわびを言って、同じ本を購入してお返ししたが、穴のなかに潜りたくなるほどだった。雪の中でプヨプヨになった本は、私に同情するかのように、今は本棚の隅で静かに冬眠している。

あるとき、図書館から借りた本を読んでいると、太い線が文章に沿って引かれていた。本を持つ手が震えるほど、腹立たしく情けない気持ちになった。

その人にとっては、心に残る文章なのだろう。でもこれは公共の本なのだ。あとから手に取る人のことと、線を引かれて汚れた本の気持ち、それを分かってほしい。その本が気に入ったのなら、購入して手元に置いておけばよいことなのだ。そういう本を見つけさせるのも、図書館の本の役目の一つだと、私は思っている。

図書館へ通い続けて八年。見えてきたことも、教えてもらったこともある。

読んだ本の数は千六百冊ほどになった。念願の二千冊まであと少しだ。達成したらどうなるのかな？ 心が少しだけ虹色になるかもなあー。

しかし、本を二千冊読んでも、いつか、読んだことさえ忘れる日がくる。そう考えると、今まで読んだことやその楽しさが、煙になっていくようだ。

でも私の図書カードには、今まで借りた本の数が残っているはずだ。だから今は、図書館の本と大いに親しみ、多くの足跡を残していこうと思っている。

「図書館をコミュニティ再生の場に」

図書館長 綿貫亨

この2月1日で登別市の図書館長となり丁度9年目を迎えました。これもひとえに、皆様のご支援の賜物と衷心より御礼申し上げます。

昨年11月、市民の方々による「登別まちライブラリー」が立ち上がりました。

9月に発起人である武者正樹さんから「まちライブラリーの提唱者の磯井純充さんを登別にお呼びしたので会いませんか」とのお話がありました。武者さんの熱意と行動力に感嘆しました。

こうした取り組みとしては「まちじゅう図書館」が知られています。これは長野県小布施町の図書館長だった花井裕一郎氏が発案したもので、私も花井氏の講演を聴いたことがあります。しかし今回、磯井純充氏の話聞いて、それとは似て非なるものであることが分かりました。

「行政や図書館の関与は要らない。市民が自分たちでつくりあげていくことが満足度の高いものにする鍵であり、またそのプロセスにこそ意味がある」。磯井氏はそう強調されました。

「まちライブラリー」は「みんなで創る楽しみ」と「目標ではなく道草を楽しむ」ことを希求した「個から始まる」自発的なものです。行政や図書館からの依頼や働きかけによるものではありません。

磯井氏は著書『まちライブラリーのつくりかた』（学芸出版社）でも、「まちライブラリーは組織ではなく個人の思いや力による世界」と述べており、武者さんの「本で人をつなぐことで登別のまちを活性化したい」という一人の市民の強い思いこそ、まさに「まちライブラリー」の理念そのものといえます。

磯井氏の話はとても印象に残りました。「広げようとしないうことが広がるコツ」「店にただ本を置くだけではなく自分の趣味や楽しみを表現することに努めよう。感性の近い人とのつながりが生れる」。

さらに「世界は6人でつながっていく」という社会学者ダンカン・ワッツの「スモールワールド」にふれ、「小さなつながりこそ最も重要だ。まず5人を引き込もう。その5人は5人づつ引き込む。積み重ねていけばいつか鉅脈にぶち当たる。そして化ける。しなやかであること、足元を楽しくすることに留意し、小さなイベントを頻繁に行おう。参加者の数の多さよりも、相手と顔の見える関係をつくることのほうが大事だ。小さな取り組みこそが「これは自分事だ」と思える「関係者」を増やすコツだ」。

そして「ボーリングのピンではないところにマーカーを見つけよう」という魅力的な表現をされました。

11月には永田治樹先生をお招きし講演会を行いました。そのなかで英国の「コミュニティ・ライブラリー」の解説がありました。財政悪化により多くの公共図書館が閉鎖された英国で、図書館法に属さない民間の「コミュニティ・ライブラリー」が864館も誕生したとのお話でした。永田先生は「社会格差や人間関係の希薄化という状況への対処として、図書館という公共空間をコミュニティ再生の場」と話されました。英国の「コミュニティ・ライブラリー」と磯井氏の「まちライブラリー」には通底するものがあると感じました。

武者正樹さんの呼びかけで生れた「登別まちライブラリー」。この市民の自発的な取り組みから、何か大切なものが見つかる気がします。



～ うぐいす 鶯の 身を逆に さかさま はつねかな 初音哉 ～



2月。立春を過ぎれば、暦の上では春となる。最近の俳句ブームの中、ふと春の句を思い出してしまった。芭蕉の高弟、其角が詠んだ句である。

意味としては、鶯が春の訪れを鳴いて知らせ、その鶯も春を喜んで梅の木の中を身軽く飛び回っているさま、そんな耳にも目にも春の鮮やかさが伝わってくる一句。

でも、この俳句で、私が思い出すことが、実はもう一つある。春の長閑さとは全く逆さまなイメージ・・・それが、今月のおすすめ本である。

久しぶりに取り出してみた。最初に読んだのは中学1年。当時と変わらず、この小さな文庫本にはカバーも帯もない。表紙もぼろぼろ、中を開けば黄ばんだページ、その四方は焼いたトーストのようにこんがりとヤケている。

元々は親の本棚にあったものだが、読み終わってからは、自分のものにしてしまった本。引っ越しのたびに処分することができたのに、ずっと手元に残してきた文庫本。

中学1年にとってはとても読み辛かった、漢字は多いし、文章は少し固いし、戦後の雰囲気や因習もよく分からなかった。でも、俳句を使った見立て殺人、連続殺人に翻弄される名(迷)探偵、明かされた真相と真犯人、あの衝撃は今でも鮮烈に覚えている。

そんな思い出のある作品だから、この本を捨てられなかったのだろうか？

今、時代は、昭和、平成、そして新しい元号に変わろうとしている。社会も目まぐるしく変わっている。もしかしたら、昔の思い出にこだわることで、未来に目を背けようとしているのだろうか？それとも、不安な未来に進みたくなくて、思い出にすがろうとしているのだろうか？・・・いいえ、思い出は、明日を生きるためにあるのです。思い出から力をもらうのです。明日への一歩のために、思い出は背中をそっと押すことでしょ。

なんか気恥ずかしいですが、私の背中を中学の時から押してきてくれた作品を紹介します。昭和22年に発表された本格推理の金字塔。“金田一耕助シリーズ”第2弾となる長編小説。

横溝正史の「獄門島」

郷土資料紹介

「アイヌの父 ジョン・バチエラー」 仁多見巖著 楡書房

△ ジョン・バチエラー家跡：青葉町32番地1

△ 愛燐学校跡：幌別町5丁目2番地

登別には、ジョン・バチエラーゆかりの史跡が2つある。

ジョン・バチエラーは、1886(明治19)年5月から、1892(明治25)年の札幌に移るまでの約6年間を幌別で過ごしている。宣教師ではあるが、宣教師の評価よりも、「アイヌ」語や文化、イメージを刷新・紹介した功績は大きく、そんな彼の姿を垣間見ることのできる1冊となっている。来年には、おとなりの町にウポポイができる。改めて、ジョン・バチエラーにスポットが当たるかもしれない。

新着図書案内 平成31年2月 No.1

●印は今評判の本です。(電話やメール・ホームページでも予約を受け付けています)

書名	著者	書名	著者
0 総記		高坂正堯 戦後日本と現実主義	服部 龍二
トコトンやさしいアルゴリズムの本	坂巻 佳壽美	陸奥宗光 「日本外交の祖」の生涯	佐々木 雄一
私説集英社放浪記 「月刊明星」「プレイボーイ」から新書創刊まで	鈴木 耕	大化改新を考える	吉村 武彦
サイバーセキュリティ	谷脇 康彦	祇園、うっとこの話 「みの家」女将、ひとり語り	吉村 薫
創造するということ	宇野 重規ほか	● 人生はどこでもドア リヨンの14日間	稲垣 えみ子
沖縄報道 日本のジャーナリズムの現在	山田 健太	森とコーヒー薫る街歩きノルウェーへ	真木 彩衣
読みたいのに読めない君へ、届けマルチメディアDAISY	牧野 綾	許せないを許してみる 籠池のおかん「300日」本音獄中記	籠池 諄子
● 本屋の新井	新井 見枝香	感動の温泉宿100	石井 宏子
1 哲学・宗教		秘蔵カラー写真で味わう60年前の 東京・日本	J. ウォーリー・ヒギンズ
年を重ねて、今がいちばん	下重 暁子	● 墓が語る江戸の真実	岡崎 守恭
マンガでわかるアンダーコントロールガイド	清水 栄司	3 政治・経済・社会・教育	
終生知的生活の方法	渡部 昇一	パパのための娘トリセツ	小野寺 敦子 監修
● 妻のトリセツ	黒川 伊保子	● ころろ揺らす	北海道新聞社
禁足地巡礼	吉田 悠軌	女性のための「起業の教科書」	豊増 さくら
弘兼流ぼくのピンピンコロリ	弘兼 憲史	ストする中国	郝 仁
にぎやかだけど、たったひとりで 人生が変わる、大富豪の33の教え	丸尾 孝俊	ルポ中年フリーター	小林 美希
バカとつき合うな	堀江 貴文 西野 亮廣	100歳時代の新しい介護哲学	久田 恵
靖國の精神史 日本人の国家意識と守護神思想	小堀 桂一郎	● 穏やかな死のために 終の住処芦花ホーム物語	石飛 幸三
笑える腹立つ(ムカつく)イスラム夫と 共存中	ハスナ	無税入門 完全版	只野 範男
わたしの家族の明治日本	ジョアンナ・ シェルトン	家でできる「自信が持てる子」の育て方	沼田 晶弘
貧困脱出マニュアル	タカ大丸	ゆりかごにそっと 熊本慈恵病院「こうのとりのゆりかご」に託された母と子の命	蓮田 太二
2 歴史・地理		鋳物	中江 秀雄
● 日本国紀	百田 尚樹	スマホ社会の落とし穴	清川 輝基共著
● 知られざるシベリア抑留の悲劇 占守島の戦士たちはどこへ連れていかれたのか	長勢 了治	日本の祭り解剖図鑑	久保田 裕道
北海道150年の写真記録	米倉 正裕	日銀日記 五年間のデフレとの闘い	岩田 規久
〈海賊〉の大英帝国	薩摩 真介	あやしい催眠商法だましの全手口	ロバート・熊
武士の起源を解きあかす 混血する古代、創発される中世	桃崎 有一郎	壁の向こうの住人たち アメリカの右派を覆う怒りと嘆き	A. R. ホックシールド
はじめての明治史	山口 輝臣	憲法問答	橋下 徹 木村 草太
● 松浦武四郎の生涯 北海道と名づけた男	更科 源藏	「非認知能力」の育て方 心の強い幸せな子になる0~10歳の家庭教育	ボーク重子
図説日本の島	平岡 昭利	桐谷さんの株主優待生活	桐谷 広人
ヘッポコ征夷大將軍	長谷川 ヨシテル	公卿会議 論戦する宮廷貴族たち	美川 圭
幕末維新史年表	大石 学	脱! 暴走老人 英国に学ぶ「成熟社会」のシニアライフ	谷本 真由美
朝鮮属国史 中国が支配した2000年	宇山 卓栄	● 漂流児童 福祉施設の最前線をゆく	石井 光太

新 着 図 書 案 内 平成31年2月 No.2

広報のほりべつでも新着図書の紹介をしています。

書 名	著 者	書 名	著 者
ピンボーでも楽しい定年後	森永 卓郎	独楽の科学	山崎 詩郎
● 辺境メシ ヤバそうだから食べてみた	高野 秀行	はじめての解析学	原岡 喜重
日米安保体制史	吉次 公介	おたる水族館楽しい仲間たち	おたる水族館
移民国家アメリカの歴史	貴堂 嘉之	シニアの筋トレ・ロトレ・骨体操	荒井 秀典ほか
わたしの町は戦場になった シリア内戦下を生き抜いた少女の四年間	ミリアム・ラウィック	● 医者の本音	中山 祐次郎
30代の働く地図	玄田 有史	アナフィラキシー 増補 原因・治療・予防	角田 和彦
いまどきの納骨堂	井上 理津子	医師に「運動しなさい」と言われたら 最初に読む本	中野ジェームズ修一
年代別医学的に正しい生き方	和田 秀樹	自律神経が整う上を向くだけ健康法	松井 孝嘉
● 米韓同盟消滅	鈴置 高史	損する顔得する顔	山口 真美
47都道府県政治地図	八幡 和郎	認知症対策の新常識「絵本の読み聞かせ」が、予防・機能改善に効く！ 図解もっと身近にあふれる「科学」が 3時間でわかる本	鈴木 宏幸
自衛隊の闇組織 秘密情報部隊「別班」の正体	石井 暁	高血圧の毎日ごはん	佐藤 直樹 病態監修
● 没イチ パートナーを亡くしてからの生き方	小谷 みどり	ハーブティーブレンド100	しばた みか
100万円で家を買って、週3日働く	三浦 展	「こころ」はいかにして生まれるのか	櫻井 武
働き方改革のすべて	岡崎 淳一	● リアルサイズ古生物図鑑 古生代編	土屋 健
地図で見る日本ハンドブック	レミ・スコシマロ	5 技術・工業・家事	
● ノマド 漂流する高齢労働者たち	ジェシカ・ブルーダー	セーターの編み方ハンドブック	日本ヴォーグ
中央銀行 セントラルバンカーの経験した39年	白川 方明	意外と知らないお酒の科学	齋藤 勝裕
前川喜平が語る、考える。	前川 喜平	和布で作るアクセサリー	ブティック社
会計の世界史	田中 靖浩	休日が楽しみになる昼ごはん	小田 真規子
● 居場所がほしい 不登校生だったボクの今	浅見 直輝	よくわかるスカーフ、ストール&マフラーの 巻き方バイブル	主婦の友社
昭和少年少女ときめき図鑑	市橋 芳則	片づけられない人はまずは玄関の 靴を数えましょう	井田 典子
4 自然科学・医学		エプロン全書 改訂版	ブティック社
● なるほどそうだね札幌のカラス 2	中村 眞樹子	乾物マジックレシピ	サカイ 優佳子
魔法のメガネ屋の秘密 視力を下げて体を整える	早川 さや香	香り&歴史7つの物語	渡辺 昌宏
僕たちは、宇宙のことぜんぜん わからない	ジョージ・チャム	世界史を変えた新素材	佐藤 健太郎
NHKガッテン！コレステロール本当の健康新 常識「食べてちゃっかり改善」最新対策ワザ	NHK科学・環境 番組部	● ツウになる！ダムの教本	宮島 咲
NHKガッテン！驚きパワー大公開 カラダ若返り 3体操 缶詰ニューワールド さらば部屋干し臭ほか	NHK科学・環境 番組部	ひとり小鍋	福森 道歩
嗅覚はどう進化してきたか	新村 芳人	ニットのヘアアクセサリー	神宮司 芳子
追跡！辺境微生物	中井 亮佑	50代からの暮らしの整え方	Rin
ウイルスは悪者か	高田 礼人	毎日美味しいお取り寄せ帖	柘出版社
本と虫は家の邪魔 奥本大三郎対談集	奥本 大三郎	つくって楽しむわらわら工芸2 しめ飾りと生活用具	農山漁村文化協会
先生！親がボケたみたいなんですけど…	和田 秀樹	● 北海道小清水「オホーツクの村」 ものがたり	竹田津 実
コピーして使えるシニアの脳トレ ニング遊び	脳トレーニング 研究会		

新着図書案内 平成31年2月 No.3

●印は今評判の本です。(電話やメール・ホームページでも予約を受け付けています)

書名	著者	書名	著者
5 技術・工業・家事		どこへ行っても犬と猫	安彦 幸枝
● 払ってはいけない 資産を減らす50の悪習慣	荻原 博子	● ヒットの設計図 ポケモンGOからトランプ現象まで	デレク・トンプソン
うちの台所道具	ワタナベ マキ	どんな災害でもイヌといっしょ	徳田 竜之介監修
焼肉語辞典	田辺 晋太郎 監修	農業崩壊 誰が日本の食を救うのか	吉田 忠則
煮込み料理はフライパンで	堤 人美	7 芸術・スポーツ	
やわらかいごちそう シニアもうれしい	川上 文代	堀文子 群れない、慣れない、頼らない	平凡社
心地よい暮らしの手作り服	ブティック社	名馬たちに教わったこと	武 豊
ペットボトルキャップで作るかわいいこもの	ブティック社	一筆画で描く小さな花の四季	水野 彩月
手作り酵素シロップ 続	杉本 雅代	にっぽん漂流	加藤 登紀子
並べて包んで焼くだけレシピ	上田 淳子	北海道日本ハムファイターズの食事術	日本ハム株式会社
身近なもので作るハンドメイドレク 100歳 まで元気!リサイクルで楽しい生活を	寺西 恵里子	● 忘れられそうで忘れられない映画	和田 誠
日本一適当なパン教室のいちばん簡単& おいしいパン	Backe晶子	● 好日日記 季節のように生きる	森下 典子
北の鞆ものがたり いたがきの職人魂	北室 かず子	オリンピック全史	デイビッド・ ゴールドブラット
ひとりメシの極意	東海林 さだお	谷口ジロー 描くよろこび	コロナ・ブックス 編集部
図解 健康になりたければ家の掃除を変 えなさい	松本 忠男	風に戦いで	桂 文枝
シャツ&ブラウスの基本パターン集	野木 陽子	司馬江漢「江戸のダ・ヴィンチ」の 型破り人生	池内 了
着物リメイクですずっと着られる服	日本ヴォーグ社	もっと知りたい刀剣	内藤 直子監修
ポリ袋でつくるたかこさんの焼き菓子	稲田 多佳子	はじまりは、いつも楽しい デザイナー・彫 刻家 五十嵐威暢のつくる日々	五十嵐 威暢
● 人気の巾着バッグ	ブティック社	● 「リンゴの唄」の真実	永嶺 重敏
こうの早苗のパッチワークとソーイング	こうの 早苗	初めての水墨画楽しく描ける基本とコツ	矢形 嵐酔
暮らしが変わる仕事	田中 のり子	24式太極拳 新装版	竹内 健二
心地よさがいいね! かぎ針で編むふか ふかざぶとん	アップルミンツ	花と子どもの画家ちひろ	松本 猛
魚屋三代目のうまい! 魚定番レシピ	魚屋三代目	AURORA	谷角 靖
6 産業・商業		異なり記念日	齋藤 陽道
イオンを創った女 評伝小嶋千鶴子	東海 友和	● 十代目柳家小三治 永久保存版	平凡社
臨時災害放送局というメディア	大内 斎之	阿修羅像のひみつ	興福寺監修
トゲもふ! はりねずみのあずきLIFE	角田 修一写真	ドールハウス 名作劇場	亥辰舎
ユニバーサル・スタジオ・ジャパン お得意技ベストセレクション 2018	晋遊舎	だれでもどこでも泳げるようになる! 水泳 大全	鈴木 大地
鉄道とファン大研究読本	久野 知美	8 言語	
サケ学への誘い	帰山 雅秀	大学生のためのレポート・論文術 最新版	小笠原 喜康
犬ごはんの教科書	俵森 朋子	65歳から頭がよくなる言葉習慣	樋口 裕一
海峡の鉄道青函連絡船	原田 伸一	● おとなママの会話術	辰巳 渚
ペットと暮らす獣医師からのアドバイス	Team HOPE	K-POPで韓国語! 2017-2018	HANA韓国語 教育研究会

新 着 図 書 案 内 平成31年2月 No.4

広報のほりべつでも新着図書の紹介をしています。

書 名	著 者	書 名	著 者
913 日本の小説		東京輪舞(Rond)	月村 了衛
● 熱帯	森見 登美彦	夜のリフレーン	皆川 博子
● はつ恋	村山 由佳	● 家康 2 不惑篇	安部 龍太郎
● フーガはユーガ	伊坂 幸太郎	● ラストラン(ランナー 4)	あさの あつこ
こちら横浜市港湾局みなと振興課です	真保 裕一	● 14歳、明日の時間割	鈴木 るりか
● 平成くん、さようなら	古市 憲寿	刀と算盤 馬律流青春雙六	谷津 矢車
● チンギス紀 3 虹暈	北方 謙三	● 穴あきエフの初恋祭り	多和田 葉子
月	辺見 庸	崖の上で踊る	石持 浅海
ぼくは朝日	朝倉 かすみ	リベンジ	柴田 哲孝
● エリザベスの友達	村田 喜代子	決戦! 設楽原 武田軍vs. 織田・徳川軍	宮本 昌孝
デルタ 陸自「影」の兵士たち	杉山 隆男	群青の魚	福澤 徹三
● 黄泉坂案内人 4条目 思い出の向こう岸	仁木 英之	あれは誰を呼ぶ声	小嵐 九八郎
祭火小夜の後悔	秋竹 サラダ	凜の弦音(つるね)	我孫子 武丸
● スマホを落としただけなのに 囚われの殺人鬼	志駕 晃	探偵は教室にいない	川澄 浩平
佐野洋子の動物ものがたり	佐野 洋子	春は始まりのうた マイ・ディア・ポリスマン	小路 幸也
● 二十五年後の読書	乙川 優三郎	9 その他の文学	
新・二都物語	芦辺 拓	● 大人の流儀 8 誰かを幸せにするために	伊集院 静
手をつないだままさくらんぼの館で	令丈 ヒロ子	● おばちゃん介護道 独身・還暦作家、91歳母を見る	山口 恵以子
黒いピラミッド	福士 俊哉	日本文学全集 5 源氏物語 中	池澤 夏樹
私はあなたの瞳の林檎	舞城 王太郎	堀田善衛を読む 世界を知り抜くための羅針盤	
無事に返してほしければ	白河 三兔	● 猫がいなけりゃ息もできない	村山 由佳
白いジオラマ	堂場 瞬一	● 帰れない山	パオロ・ コニエッティ
あなたはここで、息ができるの？	竹宮 ゆゆこ	芸能の不思議な力	なかにし 礼
ヘブン	新野 剛志	長い長い郵便屋さんのお話	カレル・チャペック
戒名探偵卒塔婆くん	高殿 円	傍らにいた人	堀江 敏幸
ラストレター	岩井 俊二	● パワー	ナオミ・ オルダーマン
見返り検校	乾 緑郎	母の教え 10年後の『悩む力』	姜 尚中
犬も食わない	尾崎 世界観 千早 茜	● 先生、ちょっと人生相談いいですか？	瀬戸内 寂聴
神さまを待っている	畑野 智美	● 宮部みゆき全一冊	宮部 みゆき
ダンデライオン	中田 永一	加藤周一はいかにして「加藤周一」となっ たか 『羊の歌』を読みなおす	鷲巢 力
● 血の雫	相場 英雄	許そう。	葉 祥明
雨上がりの川	森沢 明夫	推薦文、作家による作家の	中村 邦生編
● 流砂	黒井 千次	最後の「愛してる」 山下弘子、5年間の愛の軌跡	前田 朋己

本の貸出・返却についてのお知らせ

登別市の図書館・分館・配本所・移動図書館車で借りた本は、最寄りの各配本所等で返却することができます。同様に登別市で借りた本を室蘭市・伊達市の図書館で返却、室蘭市・伊達市で借りた本を登別市で返却することも可能です。

また、予約本のお受け取りも三市（登別市・室蘭市・伊達市）で行うことができます。

三市では『利用者カード』『よむ・よむカード』がご利用になれます。（返却の際にはカードのご提示は必要ありません）どうぞ、お気軽にご利用ください。

登別市立図書館

図書館カレンダー 平成31年(2019年) 2月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 映画会
3	4 本館休館	5	6	7 分館休館	8	9 読み聞かせ講座
10	11 建国記念の日 本館休館	12 祝日振替 本館休館	13 ブックスタート おはなしくれよん	14 ビブリオバトル 分館休館	15	16 サポーター説明会
17	18 本館休館	19	20	21 分館休館	22 図書整理日 本館休館 分館休館	23 郷土文化講座 おはなしほけっと
24	25 本館休館	26	27 ライブラリースタート おはなし会	28 分館休館	3/1	3/2 映画会

図書館施設案内

	本館 こぐま号	アーニス分館	鷺別配本所	登別配本所	温泉配本所
住所	中央町5-21-1	中央町4-11	鷺別町3-3-4	登別東町3-6-7	登別温泉町58-1
電話	85-4324	81-2182	86-8823	83-1131	84-2068
休館日	月曜日・祝日・年末年始 本館：最終金曜日 こぐま号：日曜日	木曜日 最終金曜・年末年始	年末年始のみ		なし
開館時間	10:00～18:00 (木曜のみ19:30)	10:00～20:00	9:00～18:00 (昼休みあり)	9:00～17:30 土日祝 17:00	9:00～15:00